

英作文から見えること

大垣工業高等学校
松本 由美

1

- 1) テーマ設定の理由①・②
- 2) 研究内容
- 3) 成果と課題
- 4) 感想

2

1) テーマ設定の理由①

【本校の英語コミュニケーションⅠ】

- ・ 中学英語の学び直しからスタート
- ・ 学科ごと、および、クラス内の学力差

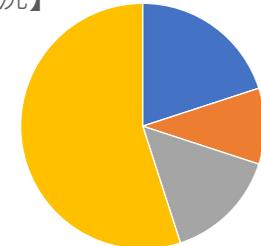
→ **アウトプットを通し、個々の理解の定着を図る**
『英作文の自宅学習課題』を設定

3

1) テーマ設定の理由②

【年度当初の自宅学習課題の状況】

- やってこない 20%
- 他人のを写す 10%
- 翻訳機能を使う 15%
- 自力で（なんとか）作文 55%



→ **自分の力で英語を使って表現できるようにしたい**

4

2) 研究内容

①授業で学んだ文法を用いて英作文 (25題)

②キーワードを用いた本文要約

Step1: 口頭で伝える (ペア活動)

Step2: 英作文 (ペア活動→全体)

③本文に関するT/F文作り (ペア活動)

④定期考査に英作文を出題

5

2) 研究内容

①授業で学んだ文法を用いて英作文 [例1]

課題の指示

1. 関係詞を用いた英作文 (3文)
2. whoで1文、whichで1文
3. 3文目の関係詞は各自で選択

取り組みの様子

- 関係詞を正しく理解した
- 主語、動詞の欠落
- 文法のミスはあるが、知っている英単語を使って書こうとしていた

who/which
 ① That is a boy who ^{is} washing hands.
 ② There is a girl who ^{is} looking at a map.
 ③ The bicycle which ^{is} from Tokyo is the blue one.
 who/which
 There is a girl who looks at the map.
 There is a man who rides a bicycle.
 There is a boy who washes his hands.

6

2) 研究内容

①授業で学んだ文法を用いて英作文 [例2]

課題の指示

1. 現在分詞を用いた英作文
2. イラストの話の説明する
3. 3文以上

取り組みの様子

- 現在分詞を正しく理解した
- 代名詞の不一致
- 翻訳機能の使用 (生徒の学力との差)

① There is a dog walking happily on the bridge.
 ② There is a dog looking at himself in the river.
 ③ When I was absorbed in it, I dropped the meat that my dog had.
 ④ I flew to the river to get it, but I couldn't get it.

7

2) 研究内容

①授業で学んだ文法を用いて英作文 [例3]

課題の指示

1. to不定詞を用いた英作文 (3文以上)
2. イラストを説明する

取り組みの様子

- 不定詞を正しく理解した
- 知らない単語は、調べて取り組んだ
- スペル、代名詞、冠詞などの不定着

This is a field to eat or walk with animal animals.
 The boy has a ball to play with dog.
 The man has tongs to carry meats.
 Those are dishes to eat meats.
 That is a table to eat together.
 The boy is wearing cap to avoid sunshine.
 That is a river to get water.
 There are trees to avoid rain.
 That is a river to fish.

8

2) 研究内容

②キーワードを用いた本文要約 Step1

活動の指示

1. 本文内容を要約するために必要な**キーワード**を5つ選ぶ
※キーワード選びに正解、不正解は無いことを説明する
2. キーワードを全て使って要約し、**日本語**で相手に伝える（口頭）

取り組みの様子

- 教科書や板書したワークブックを積極的に活用していた
- ペアの要約文を聞くことで、自分の要約文と比較し、改善することができた

9

2) 研究内容

②キーワードを用いた本文要約 Step2

活動の指示

1. 本文内容を要約するために必要なキーワードを5つ選ぶ
2. キーワードを全て使って、日本語で相手に伝える（口頭）
3. 要約した内容を**英語**で作文する

取り組みの様子

- 教科書の表現を使い、**代名詞**に意識して書けるようになった
- お互いの要約文を読むことで、**相手の間違いに気づく**生徒が増えた

10

2) 研究内容

②キーワードを用いた本文要約 Step2に向けて

Step1からStep2の間に取り組んだこと（例）

Step1

①親 Maguchi's father supported her plan but her brother opposed it.

②経済面
Maguchi had difficulty in finding sponsors for her financial support.

Step2

Maguchi experienced first fun
Maguchi liked climbing trees.
She went to Guam and experienced sports climbing.
It was fun.
She did sports climbing for the first time.

(1)設問に英語で答える
(2)ペアで読み合う
(3)相手の間違いを見つけ、共有する

11

2) 研究内容

③本文に関するT/F文作り

活動の指示

1. 本文内容を問うT/F文を英語で作る
2. 作った問題をペアで出題しあう

取り組みの様子

- 全体的に、答えがFになる問題を作る傾向があった
→Tでも良いことを説明し、英語が苦手な子の取り組みを促した
- 本文をそのまま抜き出して作問すると、**代名詞の不一致**などで内容が**不明瞭**なることに気づく生徒が増えた

12

2) 研究内容

④定期考査に英作文を出題

方法

1. 学期ごとに取り組んだ英作文のテーマから1題出題
2. 事前に準備をして、考査に臨む

取り組みの様子

- 特に英作文に苦手意識のある生徒が、自主的に質問に來たり、普通の自宅学習に前向きに取り組むようになった

13

3) 成果と課題

①授業で学んだ文法を用いて英作文

- 年間を通して、自宅学習の習慣がついた
- 翻訳機能の使用を否定しないことで、翻訳機能で作った英文に生徒自身が違和感をもち始め、ALTが理解できるか（不自然ではないか）？、どう直すとわかりやすい英文になるか？など、さらなる学びの機会になった
- ALTにも生徒の英作文を添削してもらうことで、生徒の学力を共有できた

②キーワードを用いた本文要約 Step1・Step2

- 目的をもって、教科書やワークブックを何度も読み返す機会となった
- ペア活動を通して、お互いの工夫や間違いなど見つけることができるようになった
- △英文で要約させるためには、段階を踏み、長期で取り組むことが必要

14

3) 成果と課題

③本文に関するT/F文作り

- ペアで出題しあうことで、楽しく参加する生徒が多かった
- 作った文を教師は添削せず、生徒間でアドバイスし合うようにした
- △授業内で、自力で作文できない生徒のフォローが不十分だった

④定期考査に英作文を出題

- 苦手意識のある生徒は、準備をして考査に臨むことができた
- △出題方法の工夫と評価

15

4) 感想

生徒自身が、自分の力で英語を使って表現できるようにするためには、長期的で段階的な全体指導と個別指導を同時に行う必要性を感じた。

その過程で、生徒の学力を把握し、授業改善に活かすこと、また、教師による一方的な英作文の添削を徐々に減らし、生徒自らが、英作文における違和感や間違いに気づく機会を設けることが大切だと感じた。

16

使用教材

英語コミュニケーション I

教科書 Power On English Communication I
(東京書籍)

副教材 同上 Workbook
(東京書籍)